

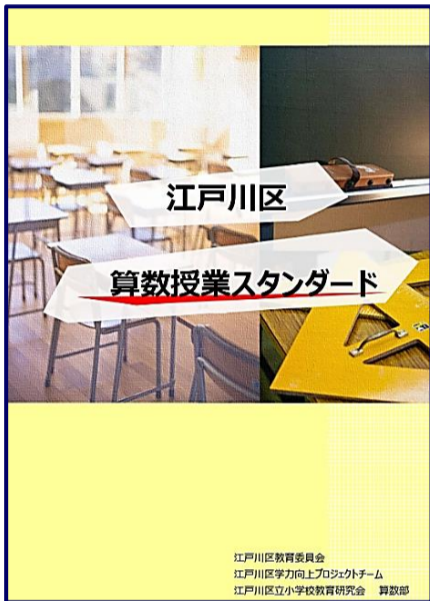


江戸川区では、児童・生徒の学力向上に力を入れています。「2030年の江戸川区 SDGsビジョン」に示す「確かな学力の向上」を実現するため、江戸川区教育委員会と江戸川区立小・中学校が力を合わせ、江戸川区の子どもたちの学力をさらに高める取組を進めていきます。令和5年度は、江戸川区教育委員会に「学力向上プロジェクトチーム」を設置し、小学校算数、中学校数学、中学校英語の3教科について、授業の改善や児童・生徒の学習支援を行ってきました。

そして、2026年度(令和8年度)の全国学力・学習状況調査(文部科学省)では、正答数四分位の分布におけるC・D層の児童・生徒割合について都と区の差を解消すると共に、江戸川区立小・中学校の平均正答率が、東京都全体の平均正答率を上回ることを目指します。

【学力向上プロジェクトチーム 算数分科会の取組】

▼ 算数授業スタンダードの策定



小学校の算数では、1時間の授業のプロセスを大切にしています。児童の興味をグッと引き寄せる問題提示の工夫、自力解決をする時間の確保、児童同士が学び合う時のコツなど、算数の授業をレベルアップさせるための「算数指導の極意」を冊子にして、区立小学校全校に配布しています。

☆問題提示の例 児童の学習に対する意欲を高めるために授業のスタートが肝心！つかみが重要です。

- 問題の文章から**
問題文を正確に読みながら解く。
例) 数カードを利用する。
答えがどのくらいになるか予想する。
- ゲームで**
楽しんで取り組む。
例) どうやってどちらかが負けてしまう状況が生まれる、など
- クイズで**
課題に疑問をもつ。
例) この数は何の数だとと思う?
- どちらか決める**
自分の立場を決める。
例) どちらの面積が大きい?
- 部分的・不完全な提示で**
児童の「知りたい」を高めるしかけを使う。
例) ブラックボックス
教師がまちがえる、など



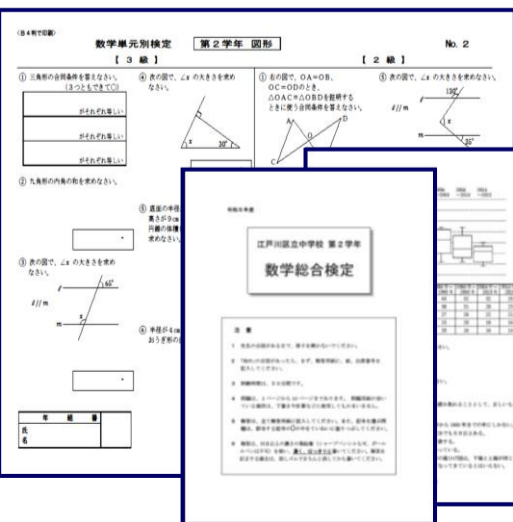
▲ 算数授業における問題提示の例

▲ 冊子を活用した授業の様子(南葛西第二小学校)

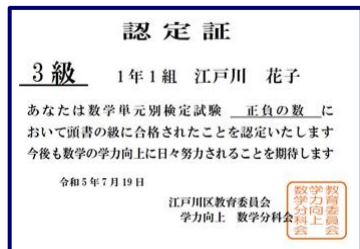
【学力向上プロジェクトチーム 英語分科会の取組】

【学力向上プロジェクトチーム 数学分科会の取組】

数学の学力向上の取組の一つとして、区立中学校で「単元別検定・総合検定」を実施しています。これは、生徒の「分かった」、「数学って楽しい」という気持ちを大切にする、江戸川区オリジナルの取組で、江戸川区が作成した検定問題(3級～1級)に中学生がチャレンジします。合格者には「合格認定証」を授与します。



生徒の学びの習得状況を定期的に把握し、学習の改善に生かすための「単元別検定・総合検定」



▲ 検定合格の「認定証」

English Lesson **EESA** イーサー
Edogawa English Speaking Action
Warm Up [授業開始10分]
(Edogawa Joyful Talking Time)
Speaking活動の充実 即興力の育成・向上
～「英語を話す時間」の確保～ 語彙の獲得

目指す生徒の姿

- 第1学年の目標**
ペアまたはグループで、Q&Aを中心とした英語によるやり取りを1分間続けることができる。
- 第2学年の目標**
ペアまたはグループで、Q&Aを中心とした英語によるやり取りを2分間続けることができる。または、Topic Chatにおいて、1人20～30語程度の語彙を使った内容を即興的に話すことができる。
- 第3学年の目標**
Topic Chatにおいて1人50語程度の語彙を使った内容を即興的に話すことができる。



▲ 生徒が外国語を使ってコミュニケーションをしている様子(小岩第四中学校)



▲ 生徒の外国語による発話を促すための方法を教師が学ぶ様子(Tokyo Global Gateway)

外国語(英語)の学習では、コミュニケーション能力の向上に力を入れています。特に中学校ではスピーキングを重視し、外国語を使って即興的に話す力を身に付けることを目指しています。区立小・中学校には、外国語指導助手(ALT)が週1回程度勤務し、授業や給食、休み時間など、学校生活の中でネイティブ・スピーカーと接する環境を整えています。